

第4回TPMモデルによる臓器提供 mini ワークショップ in Hyogo ～地域の活性化とレベルアップ～ 開催報告

神戸大学医学部附属病院 腎・血液浄化センター
兵庫腎疾患対策協会 幹事 吉川美喜子

木々の緑が目まぶしい5月の末、姫路市にて第4回TPMモデルによる臓器提供 mini ワークショップを開催させていただきました。

これまでの3回は臓器提供に関わる院内移植コーディネーターの教育を目的としておりましたが、今回は今までの基盤に加え、院内移植コーディネーターの能力を活かす『生命のリレーチーム作り』『臓器提供側と移植医の連携』を主眼といたしました。というのも、臓器提供の現場では、救命ならびに生命維持が困難な状況や臓器不全に陥ってしまった患者や家族に対して、治療やケアをどのように行うことが望ましいのか。集中治療領域における終末期医療や臓器不全医療は様々な問題を有しています。だからこそ、救急・集中治療や移植医療に関わる多職種の専門チームが早期から関わることで、これらの問題に取り組むことができ、よりよい医療を提供できるのではないかと考えているからです。そして、第32回腎移植血管外科研究会の共催でワークショップを開催させていただいたことで、姫路を中心とした院内移植コーディネーターだけでなく移植医、都道府県コーディネーターなど様々な方にご参加いただくことができました。ご参加いただいた方々がこのワークショップで経験したことを施設や地域に持ち帰っていただき、サブタイトルに掲げたように～地域の活性化～につなげていただけるものと祈念しております。

最後になりましたが共催いただきました第32回腎移植血管外科研究会の皆さま、そしてご支援いただきました兵庫腎疾患対策協会の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

